

# 基本計画区民ワークショップ実施概要について

## ．実施概要

### 1．目的

基本計画の実現に向けて、基本計画で掲げる重点政策を進めていくための区民参加、区民との協働について、幅広い世代の区民から提案や意見をいただき、取組みの参考とするため、基本計画区民ワークショップを実施した。実施にあたっては、一般公募のほか、日頃区政にあまり関わりのない方の意見などを把握するために、以前、無作為抽出により実施したワークショップ参加者から参加を募った。

当日は、基本計画で掲げる重点政策の実現にあたって「区民参加を広げるにはどうしたらよいか」について、話し合っていたいただき、その内容をそれぞれご提案いただいた。

### 2．開催日時

平成26年7月5日(土)午後1:00～午後5:30

### 3．開催場所

世田谷産業プラザ 会議室

### 4．討議テーマ

基本計画重点政策の実現にあたって、区民参加を広げるにはどうしたらよいか

### 5．参加者

無作為抽出により参加者を募り実施した「基本構想区民ワークショップ」(平成24年6月)、「基本計画区民ワークショップ」(平成25年12月)に参加した方に募集案内を送付し、参加意向を示した方、及び、一般公募により申込みをした方を参加対象者とした。当日は42人(男性28人、女性14人)が参加した。

## 運営方法

### (1) 概要

活発な意見交換が行えるように、参加者を7のグループに分け、ワークショップを実施した。なお、各グループには進行補助としてそれぞれ1名の区職員を配置したため、1グループあたり6～9名となった。

参加者は重点政策のテーマごとに、提案するグループに分かれた。自由な意見交換が行えるよう、セッション毎に参加者がテーブルを移動しつつ議論を行うワールドカフェ方式による話し合いを実施した後、最初のグループに戻り話し合いのまとめを行った。

まとめたものを各グループの提案として、提案の発表と発表を受けた参加者間での質疑応答が行われた。

図表 -1 全体スケジュール

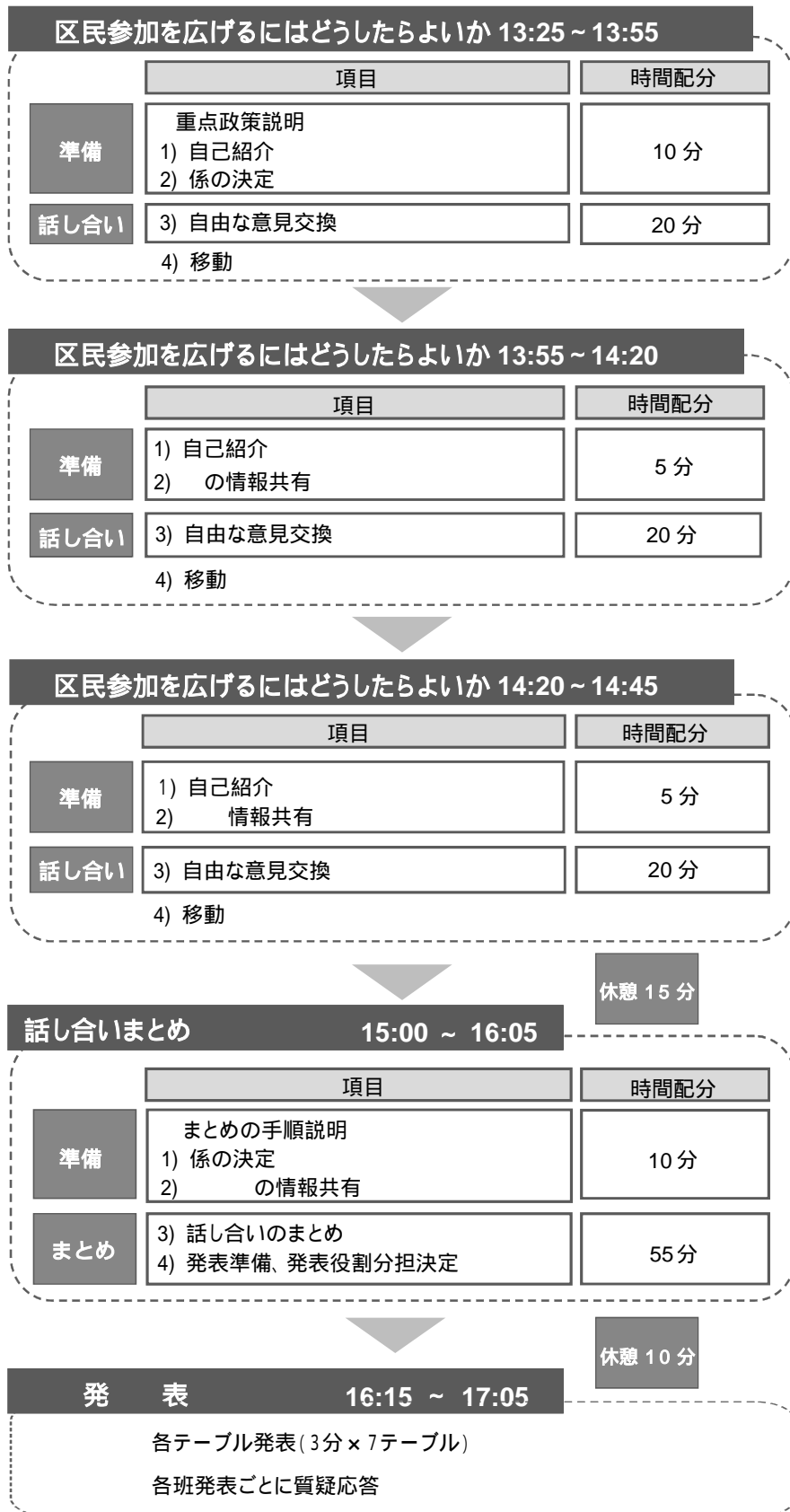
項目	時刻	時間	内容
全体ガイダンス	13:00～13:25	25分	・挨拶 ・基本計画概要、ワークショップ位置づけ説明 ・ワークショップ進め方説明
話し合い	13:25～13:55	30分	・進め方説明 ・自己紹介 テーマ「区民参加を広げるにはどうしたらよいか」
話し合い	13:55～14:20	25分	テーマ「区民参加を広げるにはどうしたらよいか」 別テーブルに移動
話し合い	14:20～14:45	25分	テーマ「区民参加を広げるにはどうしたらよいか」 別テーブルに移動
休憩	14:45～15:00	15分	
話し合いまとめ	15:00～16:05	65分	・各テーブルのテーマごとに話し合いまとめ ・発表用模造紙記載
休憩	16:05～16:15	10分	
発表	16:15～17:05	50分	・各テーブル発表(3分×7テーブル) 各班発表ごとに質疑応答
講評	17:05～17:10	5分	
区長挨拶	17:10～17:15	5分	・区長挨拶
閉会	17:15～17:30	15分	・閉会 ・アンケート記入 など

### (2) 話し合いについて

4つにセッションを分け、重点政策それぞれについて「区民参加を広げるにはどうしたらよいか」について話し合った。区民間の自由な意見交換の促進、情報共有などを目的に、セッション毎に参加者がテーブルを移動しつつ議論を行うワールドカフェ方式をとった。

参加者は、始めに各グループで、「区民参加を広げるにはどうしたらよいか」について話し合ったあと、テーブルを移動し、また別のグループの参加者と違う重点政策について「区民参加を広げるにはどうしたらよいか」について話し合った。その後、初めのグループに戻り、お互いが他のテーブルで見聞きしてきた意見を共有しつつ、「区民参加を広げるにはどうしたらよいか」について話し合った。

図表 -2 ワークショップの流れ



(3) 発表について

グループを移動して話し合ってきたことを共有し、最初のグループにおいて重点政策ごとに「区民参加を広げるにはどうしたらよいか」について話し合った結果を発表用シートに記載し、最後に全体発表を行った。

図表 -3 発表用シート

グループNO	重点政策		
<b>重点政策の実現にあたって、区民参加を広げるにはどうしたらよいか</b>			
	<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか)		
	誰が (やるのか)	誰と (やるのか)	
	どうやって (やるのか)	どこで (やるのか)	必要な情報
	<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか)		
	誰が (やるのか)	誰と (やるのか)	
	どうやって (やるのか)	どこで (やるのか)	必要な情報
	<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか)		
	誰が (やるのか)	誰と (やるのか)	
	どうやって (やるのか)	どこで (やるのか)	必要な情報
その他			

## ．実施結果

### 重点政策の実現にあたって区民参加を広げるにはどうしたらよいか

#### (1) 結果概要

「区民参加を広げるにはどうしたらよいか」としては、「自分の住んでいる街の現状把握」といった区民自らが率先して行う取組みから、「老人力の活用」「ジュニアとシニアのジョイント作戦」といった多世代交流のつながり、「地域の人たち同士で何をすべきかを考えてきめること」「環境活動に対するポイント制度の導入」といった住民同士で話し合っ決めて決める取組みなど、幅広い取組みが提案された。そのための場づくりや多様な情報の発信、ちょっとしたきっかけの重要性が話し合われた。

#### (2) 各グループの提案

下記表に示した通り、7グループより 18 の提案があった。各グループの提案の詳細について、次頁以降紹介する。

図表 1 各グループの提案した区民参加を広げるための取組み

グループ名	人数	区民参加を広げるにはどうしたらよいか		
グループ1 (重点政策 子ども・若者)	7人	保育の形の多様性	子どもの居場所を作ろう!	
グループ2 (重点政策 高齢者・障害者)	8人	活用できる場をつくる	老人力の活用	孤立を防ぐ
グループ3 (重点政策 災害)	5人	自分の住んでいる街の 現状把握	地域の人たち同士で何をす べきか考えて決めること	顔見知りを増やす
グループ4 (重点政策 コミュニティ)	5人	町会・自治会の活性化	新たなコミュニケーション作り	
グループ5 (重点政策 コミュニティ)	6人	世田谷ブランディング 作戦	協働の場作り作戦	ジュニアとシニアの ジョイント作戦
グループ6 (重点政策 文化)	5人	環境活動に対する ポイント制度の導入	自然エネルギーの積極的 取り組み	みどり・水・空気の活動 (調査含む)への区民 参加
グループ7 (重点政策 エネルギー)	6人	情報発信元(媒体等)を 多角化する	文化遺産や史跡の発掘	

## グループ1

### <発表内容>

- ・保育施設の問題、保育士不足が言われている。保育士は責任も大きいため、地域住民と一緒に負担を軽くする、保育士の仕事を分業していく。おもちゃを消毒するくらいは、地域のおじいちゃん・おばあちゃんたちでもできるかもしれない。手伝ってもらい時給も払って仕事を分けていけば、保育士も子どもの面倒を見るという本来の仕事に専念でき、必然的に保育の質もあがってくる。地域で保育の雇用が生み出されれば、保育施設の建設に追い風になるかもしれない。
- ・「ここが変だよ 世田谷情報！」として、危険な場所等の情報をうまく集めて発信できればよい。

### <質疑応答>

- ・子育てをしている若い世代など、いろんな人材が活躍できる場があればよい。
- ・社会福祉協議会や民間参入、公に近いところと民間が参入することについて意見が出たか。  
回答：行政の仕組みづくりとなると仕事を細分化したり大変だ。民間のできるところで先に運用をスタートさせてもいいのではないかななどの意見はあがっていた。

図表2 グループ1の発表用シート

グループNO	重点政策1 子ども若者が住みたいまちづくり、教育の推進		
重点政策の実現にあたって、区民参加を広げるにはどうしたらよいか			
	<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>保育の形の多様性</b>		
	<b>誰が</b> (やるのか) 保護者、保育士、地域	<b>誰と</b> (やるのか) 保育事業者	
	<b>どうやって</b> (やるのか) 仕組の分業の制度化	<b>どこで</b> (やるのか) 行政	<b>必要な情報</b> 保護者の意見 保育士の仕事内容
	<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>子どもの居場所を作ろう！</b>		
	<b>誰が</b> (やるのか) 地域ボランティアの拡充	<b>誰と</b> (やるのか) 保護者、地域住民、行政	
	<b>どうやって</b> (やるのか) 既存のものの活用	<b>どこで</b> (やるのか) 地域	<b>必要な情報</b> 既存の居場所の把握
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>ここが変だよ 世田谷情報！</b></li> <li>・ <b>無駄なものを失くす勇氣</b></li> </ul>		

## グループ2

### <発表内容>

- ・活躍できる「場」というのは、物理的な場所を確保するだけでなく、障害をお持ちの方が参加するために必要な交通手段を用意するとか、こういった場を管理する人を育成するとか広い意味で場をつくるのが大切だ。世代を超えて交流できればよい。マッチングというキーワードが一番重要である。必要としている人とやろうとしている人つなく。空き家、空き教室を活用して場を作っていけばよい。
- ・元気な方、特技を持っている人が中心になって子どもたちに教えたりすれば、世代を超えて交流できる。
- ・孤立を防ぐという大きな課題に取り組むというよりは、「ちょっと」というのをキーワードに、少しずつでもできることをやっていくことが大事だ。そうした小さな親切、善意でやっていることを行政が助けてくれる仕組みも必要だ。
- ・区民参加を広げていくためには、こういったワークショップのような場をもっと増やしていけば、いろいろな意見を持っている人がつながっていくので、よいのではないか。

### <質疑応答>

- ・「ちょっと」というキーワードがあがったが、もっと具体的に言うとうどういうことか。  
 回答：ごみ出しを少し手伝ってあげるとか、草をむしってあげるとか、家にまで入れたくないとの意見が介護される、世話をされる人の意見としてあるため、ちょっとしたことでよいので交流が持てればよいと考えた。

図表3 グループ2の発表用シート

グループNO 2	重点政策2 高齢者・障害者の在宅生活を支え、孤立させないための 地域包括ケアシステムと住まい		
<b>重点政策の実現にあたって、区民参加を広げるにはどうしたらよいか</b>			
	<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>活躍できる場をつくる</b> (移動手段を含む)		
	<b>誰が</b> (やるのか) 高齢者、障害者	<b>誰と</b> (やるのか) 親子	
	<b>どうやって</b> (やるのか) マッチング	<b>どこで</b> (やるのか) 空き家、空き教室	必要な情報
	<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>老人力の活用</b>		
	<b>誰が</b> (やるのか) 元気な特技	<b>誰と</b> (やるのか) 子どもを中心とした	
	<b>どうやって</b> (やるのか) 経験、趣味を活かして	<b>どこで</b> (やるのか) 学童保育	必要な情報
	<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>孤立を防ぐ</b>		
	<b>誰が</b> (やるのか) 近所、助けたい人、女性、 ボランティア、学生	<b>誰と</b> (やるのか)	
	<b>どうやって</b> (やるのか) ちょっと	<b>どこで</b> (やるのか)	必要な情報 NPO や団体の情報
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルパー（事業所）の質・量の向上</li> <li>・小さな親切がトラブルにならないような仕組みが必要</li> <li>・短時間でたくさんの意見が出ました こういう場をもっと増やして欲しい。</li> </ul>		

## グループ3

### <発表内容>

- ・自分の住んでいる街にどういう人が住んでいるのか、年齢であったり一人住まいなのかといった人的な属性や、土地利用、木密住宅や近くに川がある、道が狭い等の状況を把握する。まず自分でやり、ご近所の親しみやすそうな、話かけやすそうな人と一緒にやるのが重要だ。最初の敷居としてはそういうことが大きい。コミュニケーションを取るには、人とじかにあって話をすることが大事だ。現状把握、情報を取るには、消防や行政など外から助けが来ることが無理だという前提で話をしていく。
- ・地域の人同士で何をすべきか話すだけではなく、お互いに決める、了解をとることが大事である。地域の人全員で行えればよいが、本当に全員というのは無理なので、30人～50人が参加できる全員の範囲としてとらえる。
- ・行政には、町会は範囲としては大きすぎるということを前提としていただきたい。

### <質疑応答>

- ・顔見知りを増やす方法として、どんなものがあるのか。

回答：顔見知りが増える仕組みを作る意味ではなく、事実上顔見知りが増えていく、まず自分が話しかけやすい人とやる、それを各所でやれば結果として顔見知りが増える、事実上の積み重ねが大切である。いきなり顔見知りを増やすのは無理だと思う。顔見知りを増やす具体的な方法としては、ごはんを一緒に炊く、お茶を飲むなど小さなイベントを繰り返して行っていくことが大事だ。

- ・災害規模はどれくらいのものを想定したか。

回答：特に特定はしていないが、消防も警察も行政も来ることができない災害規模を想定した。

図表4 グループ3の発表用シート

グループNO 3	重点政策3 安全で災害に強いまちづくり	
重点政策の実現にあたって、区民参加を広げるにはどうしたらよいか		
タイトル (何をやるのか、何が出来るのか)	土地 建物 的 な こと	
自分の住んでいる街の現状把握 (人的な属性 & 建設的なこと)	誰が (やるのか)	誰と (やるのか)
	できる人はまず自分で!	ご近所の親しみやすそうな人と
どうやって (やるのか)	どこで (やるのか)	必要な情報
人とじかに会って	ご近所で	外からの助けが来ないのでは? (消防・警察・行政)
タイトル (何をやるのか、何が出来るのか)	地域の人たち同士で何をすべきか考えて決めること	
誰が (やるのか)	誰と (やるのか)	回覧板
地域の人「全員」で! の参加者全員	= 最大でも 30人～50人	× 2グループ
どうやって (やるのか)	どこで (やるのか)	必要な情報
「全員」で話し合っ	何処でも可	犠牲者を出さないためにすること
タイトル (何をやるのか、何が出来るのか)	顔見知りを増やす > 震災の意識アップ計画	
誰が (やるのか)	誰と (やるのか)	
30人～50人	30人～50人	
どうやって (やるのか)	どこで (やるのか)	必要な情報
具体的な練習 (炊飯、初期消火、起震車)	その後、お話を 時間を設ける 何処でも可	外からの助けが来ないときのサバイバル



その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の町内会単位というのは、本当に意味のある防災の単位としては規模が大きすぎる意識を前提とするしかない。</li> <li>・30人～50人単位のコミュニティ育成へ</li> </ul>
-----	---

## グループ4

<p><b>&lt;発表内容&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町会・自治会の加入率が56.2%と低い、低くなったからには原因がある。その原因に対して対策を打たなければ、また同じことの繰り返しになってしまう。その原因は、町会・自治会の必要性、求められるものが変わったのではないか。町会・自治会という組織が硬直化していたり、どのような目的で町会・自治会があるのかわからない。自分にメリットがあるものに対しては参加しようとしてくれるが、メリットがないものに対しては興味を示さないという住民の意識の問題もある。それから、情報の問題。他の町会が何をやっているのかわからない。</li> <li>そのため、町会・自治会の中でワークショップを行い、町会・自治会の活動についてメリットなど周知する。</li> <li>・町会・自治会以外の新たなコミュニケーション作りとして、さまざまなグループが活動しているため、そこと連携して行っていけばよいのではないか。</li> <li>・住民が少人数でもよいから集える場所をつくってほしい。</li> </ul>
--

<p><b>&lt;質疑応答&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町会・自治会を活性化していくことは難しいが、住民が加入しようと思うメリットの一番は、防災があるのではないか。活性化のためにワークショップを実施してもなかなかそこに参加いただけないと思うが、参加いただくための工夫、興味がない方にはいっていただくための案は出たのか。</li> </ul> <p>回答：そういった話は出なかったが、今取り組んでいる例としては、町会を防災特区にしようという活動があるが、こういった形を打ち出せば、町会・自治会に加入しないとメリットを受けられないといった、自らがアクティブな活動をすることによって参加率、加入率をあげていく。</p>
---

図表5 グループ4の発表用シート

グループNO 4	重点政策6 豊かなコミュニティ活動の発展と住民自治の推進		
重点政策の実現にあたって、区民参加を広げるにはどうしたらよいか			
	<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>町会・自治会の活性化(加入率UPのために)</b>		
	<b>誰が</b> (やるのか) 町会・自治会が(世田谷区含む)	<b>誰と</b> (やるのか) 住民と共に	
	<b>どうやって</b> (やるのか) 町会・自治会についてのワークショップの実施 (1.アクティブな活動のあり方)(2.メリットの訴求) (3.外国人の加入促進等)	<b>どこで</b> (やるのか) 各地域で	必要な情報
	<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>新たなコミュニケーション作り</b>		
	<b>誰が</b> (やるのか) 住民	<b>誰と</b> (やるのか) NPO、各種活動団体	
	<b>どうやって</b> (やるのか) ワンワンパトロール、防災パーティー 少年サッカーとの連携	<b>どこで</b> (やるのか) 各地域で	必要な情報
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記のテーマについて区の全面的支援</li> <li>・人が集う場所づくり(空き家活用、区民が何かアクションできる場所) (地先緑地(グリーンハウス、エコハウス))</li> </ul>		

## グループ5

### <発表内容>

- ・世田谷区はマンション等の住宅が多いため、コミュニティが希薄化している。どのようにしてコミュニティ活動を活性化していくのか、あまり地域のことに興味がない区民に参加を広げていくにはどうしたらよいか考えた。
- ・自分は世田谷に住んでいるんだということを多くの区民が誇りに思っていて、地域参加につながるようなことをやればよい。世田谷らしさを住民に根づかせればよい。
- ・コミュニティに参加したくても、ラジオ体操などをしたくても、そういった場所がない。地域で場所がある人が場所を提供する。マッチングサイトなどを活用し、情報を提供していけばよい。
- ・高齢者も子どもも増えているため、高齢者と子どもをジョイントさせるような取組みを行う。ソーシャルメディアアプリを使って、そば打ちの達人など、地域にこういった達人がいるといった情報を広め、協働する場で子どもたちに教えていく。

### <質疑応答>

- ・私の地域の町会はこんなに活性化しているという話も聞く。場所によって差があるのではないかと。区として先行している、うまくいっている事例を区が広報等でアピールしてあげると、全体の底上げになるのではないかと。
- 回答：ソーシャルメディアなどを活用して、町会・自治会同士で分かち合う、共有し合う必要があると思う。

図表6 グループ5の発表用シート

グループNO	5	重点政策6 豊かなコミュニティ活動の発展と住民自治の推進
<b>重点政策の実現にあたって、区民参加を広げるにはどうしたらよいか</b>		
<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>世田谷ブランディング作戦</b>		
<b>誰が</b> (やるのか) 地域住民全員参加		<b>誰と</b> (やるのか) 区と住民のコラボレーション
<b>どうやって</b> (やるのか) 世田谷由来の歴史や文化 (EX.キャラクター(サザエ、ゴジラ、ウルマン) 等を活用する。		<b>どこで</b> (やるのか) 世界に向けて！ <b>必要な情報</b> 世田谷コンテンツ
<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>協働の場作り作戦</b>		
<b>誰が</b> (やるのか) 地域で時間が有り ----->		<b>誰と</b> (やるのか) 場所に余裕が有る人
<b>どうやって</b> (やるのか) 地域暦の作成、マッチングサイト (イベント情報紙)		<b>どこで</b> (やるのか) 世田谷区内各所 <b>必要な情報</b>
<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>ジュニアとシニアのジョイント作戦</b>		
<b>誰が</b> (やるのか) 新町内会リンク、大学との連携		<b>誰と</b> (やるのか) シニア主導で
<b>どうやって</b> (やるのか) ソーシャルメディア・アプリ		<b>どこで</b> (やるのか) 協働の場で <b>必要な情報</b> 達人情報

## グループ6

### <発表内容>

- ・区民同士で、みどりと水と空気の活動参加に対してポイントを付与し、参加を広げていく。例えば、大気汚染の汚染マップを策定するにあたって、区民一人ひとりが測定器具を持って測定の地図を作るとか、公園緑地活動においても高齢者の家の木々を手入れをしたらもらえるとか、みどり応援団に対して協力すればもらえるとか。もらったポイントは、地元管理をしている公園の道具を買うポイントになるとか、ポイント制度について区民同士で考え、地元と区の支援をもらいながら、ポイント制度を導入する。
- ・自然エネルギーの積極的取組みとして、一般家庭から出る使用済みてんぷら油を回収してそれをエネルギーにかえる、生ゴミ堆肥化、落葉の自然エネルギー化、多くの家庭から出る資源を地域で資源循環させて、地域で消費していくようなエネルギー化を考えたらよい。区の補助をもらいながら導入する。
- ・調査活動に区民が直接参加してもらえるような方策をたてる。区民と活動団体が横の連携をしていけるように、直接参加をしてもらい、みどりの活動を活性化できるようにする。区民はこうした活動を知らないことが多いため、地域の人がきちんと横につなげていけるようにする。
- ・こうした活動をととして、世田谷区がみどりと水と空気がきれいなまちで住みたいまちになればよい。

### <質疑応答>

- ・どこまでが環境活動なのか、区切り、境がはっきりしなくなっているのではないか。  
回答：始めからその区切りを決めてしまうのではなく、区民が集まって話し合っ決めてよ。区民と区民が枠組みを決めるところから行えばよい。
- ・烏山寺町はみどりが減少している。ブロック塀が多くなり、野鳥がなくなった。  
回答：みんなで決めるまちの木とか、水辺のきれいさとか、区民が自ら守っていくものを決めていく。守るための方策もこの地域を大事にするという気持ちで区民が決めていかないと、本当に守れないのではないか。

図表7 グループ6の発表用シート

グループNO	6	重点政策4	自然の恵みを活かして小さなエネルギーで暮らす豊かなまちの実現	
重点政策の実現にあたって、区民参加を広げるにはどうしたらよいか				
<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>環境活動に対するポイント制度の導入</b>				
誰が(やるのか)		誰と(やるのか)		
区民		区民		
どうやって(やるのか)		どこで(やるのか)	必要な情報	
みどり・水・空気の活動参加付与		地元	区の支援	
<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>自然エネルギーの積極的取組み</b>				
誰が(やるのか)		誰と(やるのか)		
区民		区民		
どうやって(やるのか)		どこで(やるのか)	必要な情報	
ソーラー、てんぷら油、生ゴミ、落葉等々のエネルギー化(発電等)		家庭	区の補助	
<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>みどり・水・空気の活動(調査含む)への区民参加</b>				
誰が(やるのか)		誰と(やるのか)		
区民・活動団体		区民・区		
どうやって(やるのか)		どこで(やるのか)	必要な情報	
直接参加		地元・区		

## グループ7

### <発表内容>

- ・世田谷区には区民参加のグループは数多くあるが、そういったグループがあるという情報をどこで得られるか。区報などもあるかもしれないが、若い人であればパソコンで検索すればよいが、それだけでは十分行き渡らない。カフェなどに情報紙を置くなど、情報の発信元を多角化すれば、いろんな人に知らせることができるのではないか。
- ・世田谷に住んでいても意外と文化遺産などは知らない。文化遺産や史跡を知っている人とグループを組んで、世田谷の文化をもっと広げていく。
- ・情報を一方的に流せばよいというわけではなく、情報を区民が選択できるようにすることも大切だ。

### <質疑応答>

- ・既に区民の参加ってあるんだと、うまく情報発信していくことが大切だということか。  
 回答：世田谷には区民参加のグループが、無償で、ボランティアでやっているところがたくさんある。区のおしらせでも掲載されるが、いろんな場所で、パソコンが使えない人でも、あの場所に行けばその情報が得られるといった多角化を図る。

図表8 グループ7の発表用シート

グループNO 7	重点政策 5 世田谷の文化の創造と知のネットワークづくり		
<b>重点政策の実現にあたって、区民参加を広げるにはどうしたらよいか</b>			
	<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>情報発信元 (媒体等) を多角化する</b>		
	<b>誰が</b> (やるのか) 区民 (選出された) が	<b>誰と</b> (やるのか) 民間事業者と	
	<b>どうやって</b> (やるのか) 区とタイアップして	<b>どこで</b> (やるのか)	<b>必要な情報</b> 各年齢層がどういった場所・方法で情報を取得するか
	<b>タイトル</b> (何をやるのか、何ができるのか) <b>文化遺産や史跡の発掘</b>		
	<b>誰が</b> (やるのか) 区民 (同土) が	<b>誰と</b> (やるのか) 各施設や場所	
	<b>どうやって</b> (やるのか) 詳しい方の知識やノウハウを使って	<b>どこで</b> (やるのか)	<b>必要な情報</b>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドミュージアム構想 (史跡のネットワーク化)</li> <li>・ミュージアム (ウルトラマン、サザエさん、ゴジラ) をオリンピックに向けて発信</li> <li>・情報の洪水は回避 (選択の自由を与える)</li> </ul>		